

九条の会

No.45.2010. 5.9

だより

おがわ町九条の会

〒355-0315 小川町みどりが丘 5-13-3(西田一雄気付け)

T/F 72-4445 ホームページ <http://www.ogawa9jo.com/>

ありま り え

女優有馬理恵さん講演会

「差別と戦争をなくすために～おしばいとおはなし～」

5月16日(日) 午後2時開演 (開場1時30分)

腰越パトリアおがわ ホール



ごあいさつ

実行委員長 新井喜代美

二十数年前 浅利香津代さんの「釈迦内枢唄」(しゃかないひつぎうた)(水上勉原作)を観ました。いわれなく差別される者の哀しみ、苦しみ、そして弱者への愛、それらが主人公「ふじ子」によって、人は皆、平等、死ねば同じ灰、と昇華されてゆきます。幕が降りた後は感動で号泣してしまい、しばらく席を立つことが出来ませんでした。

昨年、東松山で、有馬理恵さんの芝居「釈迦内枢唄」

の一部と、芝居への思い、差別への思い、平和への願いなど、熱いおはなしを聴くことが出来ました。こんな素晴らしいお芝居とお話を小川町で大勢の人に観て聴いてもらいたいね、とその時の仲間達と話していました。

そしてこの度、おがわ町九条の会で講演会として実現されることになり、そのための実行委員会もつくられ、準備しています。パトリアの会場一杯にして有馬さんを迎えたいと願っています。子育て中のお父さんお母さんにも観て頂きたい、と保育室も準備しています。学生さん、障害のある方にもと、割引券も用意しています。是非皆さん5月16日(日)午後2時(開演)パトリアでお待ちしています。【お問い合わせ：74-11381(渡辺)】

井上ひさしさんの志を受けついで

九条の会講演会

〔日米安保の50年と憲法9条〕

2010年6月19日(土)

13時30分開会(開場12時30分)

日比谷公会堂(東京都千代田区日比谷公園内)

参加費 前売り1000円 当日1500円

手話通訳あります



講演：大江健三郎(作家)

奥平康弘(憲法研究者)

澤地久枝(作家)

鶴見俊輔(哲学者)

(講演予定者は4月10日現在)

この6月に「九条の会」は発足から6年をむかえます。そして日米安保条約が改定されてからちょうど50周年。この大事な時期によびかけ人のひとりの井上ひさしさんを失いました。非常に残念です。「九条の会」結成の原点に立ち返り、あらためて一緒に考えましょう。——憲法9条に基づき、アジアをはじめとする諸国民との友好と協力関係を発展させ、アメリカとの軍事同盟だけを優先する外交を転換し、世界の歴史の流れに、自主性を発揮して現実的にかかわっていくことが求められています。憲法9条をもつこの国だからこそ、相手国の立場を尊重した、平和的外交と、経済、文化、科学技術などの面から協力ができるのです——(九条の会アピール)

申込方法 郵便局備付けの振替用紙通信欄に必ず「入場券〇枚希望/名前/住所/電話番号」をお書きのうえ、下記の郵便振替口座に参加費(1人1000円)をお振込みください。

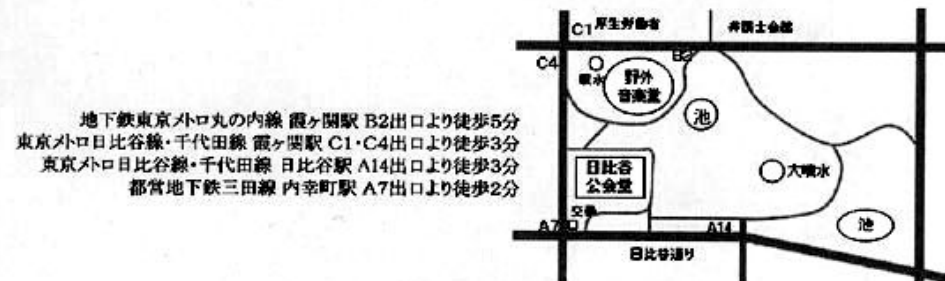
振込手数料はご負担願います。

郵便振替口座：00180-9-611526 加入者名：九条の会

振込締切り：6月10日 定員に達した場合は、その時点で締切らせていただきます。

問合わせ 九条の会事務局 東京都千代田区西神田2-5-7-303 〒101-0065

TEL 03-3221-5075 FAX 03-3221-5076 e-mail:mail@9jounokai.jp



地下鉄東京外丸の内線 霞ヶ関駅 B2出口より徒歩5分
東京外丸の内線・千代田線 霞ヶ関駅 C1・C4出口より徒歩3分
東京外丸の内線・千代田線 日比谷駅 A14出口より徒歩3分
都営地下鉄三田線 内幸町駅 A7出口より徒歩2分

リレーメッセージ



争いからは何も生まれない。

大木宇希(青山)

戦争の恐怖や痛みはそれを経験した者にしかわからない。アジア太平洋戦争・第2次世界大戦の経験者達も戦後65年が過ぎ、ずいぶん減ってしまった。今やあの戦争を知る者、また知ろうとする者は少なく、ただの歴史の一編としてしか捉えていない若者も多い。

我々日本人は、広島・長崎に原爆を落とされた被害者という意識が強いが、中国・朝鮮の人々に対しどれだけ酷いことをしてきたか……。

(日本が被害者でもあり加害者でもある事)をねじ曲げることなく、一つの教訓として語り継いでいかなければならない。それを止めてしまったら、子ども達が戦争に行く時代がまた来るかもしれない。もし、私の子ども達に召集命令が来たら、たとえ非国民と言われようとどんな手を使ってでも戦争に行かせることは出来ない。そして、我が子に「生きて帰るために人を殺せ」と教えることは絶対に出来ない。だからこそ戦争をしないという我が国の憲法に拡大解釈はいらない。これを作ったときの思いはそのままでなくてはならない。

争いからは何も生まれない。しかし、この世の中から争いは無くならないかもしれない。だが、人の生命の尊さや一人一人考えや価値観が違うことを学び理解し、「人を傷つけ殺す」という戦争を無くさなければならない。

平和について

五十嵐 由里 (大塚)

朝目覚め、窓を開け、小鳥の声を聞きながら藍い空を見た時、今日も平和だと感じる。まだ目覚めぬ子供の寝顔を見て思わず微笑みいつまでもこの平和が続いてほしいと願う。

毎年8月になると、原爆に関するTVが多く放送される。戦争や原爆の悲惨さを痛感させられ、家族で涙する。「なんで戦争なんかしたの?なんで何も悪くない人達がこんなに苦しんで死ななくちゃならなかったの?」と小学生の娘が怒りと悲しさに満ちた瞳でやり場のない悔しさを訴える。「戦争は嫌だ。」

しかし世界には今も戦争や飢餓に苦しんでいる国があり、国内にも原爆の後遺症に苦しんでいる人がいる。今の日本は、戦争や原爆などのつらい経験があつての平和であることを忘れてはならない。戦争によって生きてくても生きられなかった人々、自由を奪われた人々の悔しさを無駄にしないよう、2度と戦争を許さない国づくりを願う。



見る世界 10代の戦争

「おもちゃ」ではない。まだあどけない表情の10代の少年たちが構えるのは、本物の銃だ。

身長に不釣り合いなほど、それが大きく見える。

イラクでの戦闘に参加する若き米兵に焦点を当てた米デンバーポスト紙のクレイグ・者のウォーカー記者の一連の 写真が、今年のピューリッツアー賞「企画写真部門」を受賞した=写真・AP。

米国のある少年が07年に高校卒業後、軍に入隊し、イラク駐留軍に配属され、帰国するまでの2年3カ月を追った。昨年9月に発表され、まだ精神的に不安定な少年兵の「葛藤」(同紙)を描き出したとして、全米に大きな反響を呼んだ。毎日新聞 4/15(篠田航一記者)から

9条サロン

「しなまき」

土が自然にできているし山でも川でも地球の一部分でしかないでしょう。これが誰のものというのには変なんです。我々は地球の子供なんだから人間をどうする生かすも殺すも、それを自由にできるのはこの自然しかないでしょう。地球があつてはじめて我々が生きているわけだから

山本清三郎(小繫裁判原告のひとり)

いまこれを読む人のなかで小繫事件を知る人は何人いるだろう。入会(いりあい)という言葉を知らない人も少なくないかもしれない。岩手県北一戸町の山間にある小繫(こつなぎ)、戸数四〇戸、一〇〇人足らずの部落の農民が、入会権を守るため、山地主や警察権力を相手に五〇年余にわたって闘ったのが小繫事件である。

この闘いがドキュメンタリー映画となった。「こつなぎ・・・山を巡る百年物語」である。当時の貴重な映像記録と今の様子が描かれている。この闘いはまさに生存権をかけた闘いであり、日本国憲法の人権保障につながる闘いであつた。

映画は、五月二十一日から六月四日まで東京の「ポレポレ東中野」館で、午後一時と三時五〇分の2回上映される。一人でも多くに観てほしいと思つている。

今、人々が共に暮らすことになくなった里山は荒れ果てています。歴史があつたのでしよう。山と生きた素晴らしい人々の貴重な記録に、心から感謝します。加藤登紀子(歌手)

(R)

